
困惑の満淫電車

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

困惑の満淫電車

【Nコード】

N4844D

【作者名】

【あらすじ】

疲れた人々が乗り込む満員電車。そこで展開する淫靡な光景。そんな感じの話です。

日も陰り、薄暗くなった世界の中、ささやかな明かりが照らす駅。仕事を終えた人々が、明かりに誘われるように駅に飲み込まれていく。

一日の澱を引きずったままの表情で、自動改札機に連なり部品のよう通過する。

その中に一人の女性がいた。

歩くごとに肩まで伸びたまつすぐな髪がさらさらと流れていく。少し疲労の色が残る頬は、それでも張りがあり、触れれば心地よい抵抗を指に与えそうな印象がある。

すれ違う男たちが通り過ぎた後振り返る。その原因である大きく目立つ胸、女はその胸を強調するように背筋を伸ばし、顔を上げて歩いていた。

周囲の男について淫らな想像をさせる雰囲気、女の体から膾炙楼のように立ち昇る。

女は周りの人間に目もくれず、階段を昇っていく。肉感的な腿の動きと、その合間の見えない暗闇に階段下から視線が集中する。女は階段を昇りきり、いつもの場所……4番ホームに辿り着いた。

4番ホームはすでに帰宅しようとする人々で、黒く暗く重苦しい空気に包まれていた。

女は少しため息のような物を吐き出して、その集団に紛れ込む。

駅のサイレンが鳴り、淀んだ集団が待ち構える駅に、18時20分発上り電車が静かに滑り込んできた。

機械的に開いた電車の入り口では、乗り込もうとする人達が群がり強引に中に入ろうとする。

明らかに電車のキャパシティを越えた人数の客に、18時20分発上り電車が叫び声を上げた。

「だめええええ、そんなに入らないいいい！ 次の駅にイッちゃう
ううう！！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4844d/>

困惑の満淫電車

2010年10月16日06時05分発行